

# バクスレー・ビジネスアカデミー (中等学校)

(The Business Academy at Bexley)

訪問日時：平成15年11月3日(月) 14:30~16:30

説明者：アラン・ギトゥンズ (Alan Gittins)

## 事前調査

- 1 名称 バクスレー中等学校  
(The Business Academy at Bexley)
- 2 所在地 (住所) Yarnton Way Erith DA18 4DW  
(電話) 020-8320-4800  
(URL) <http://www.bexley.k12.oh.us/elementary.htm>
- 3 代表者 ジョン・ケロッグ校長 (John Kellogg)
- 4 概要等



〔バクスレー・ビジネスアカデミー〕

2002年9月、ロンドン校外にバクスレー・ビジネスアカデミーがシティ・アカデミーの第一号として開校した。バクスレー・ビジネスアカデミーは、11~18歳を対象とし、国の教育課程水準を基本とするものの、情報教育、ビジネス、外国語教育、習熟度や興味関心による特別指導などを特色としている。設立は、民間人のD.ギャラードが発起人となり250万ポンド(約5億円)を出資し、政府が残りを出して設立された。

「シティ・アカデミー」の施策は、都市部の教育困難校の教育水準の向上を目的に、2000年3月、政府支援による新たな公営独立中等学校 (publicly funded independent school) として打ち出された。シティ・アカデミーは民間の個人、宗教団体や慈善団体が発起人となって設立する独立学校である。ただし、シティ・アカデミーとして国から設置許可されると公財政から補助が得られる。

学校の運営は、学校理事会が行い、理事には、発起人、地域の代表、地方教育当局の代表、教職員の代表および親の代表からなり、発起人を除けば普通の公立(公営)学校の理事会と変わりはない。

教育内容は、公立(公営)に求められる「均衡の取れた幅の広いもの」でなければならないが、同時に科学や芸術、数学やコンピュータ、外国語などいずれかの指導分野に特色を持たなければならない。

バクスレー・ビジネスアカデミーは能力選抜を行わず、情報教育を重視し、全ての生徒にe-mailを与え、開校時間を22時までとするなど新しい試みを行っている。



〔アラン・ギトゥンズ教頭からの説明〕

## 調査項目

- 1 学校設立の趣旨とねらい
- 2 特色ある教育内容・教育方法
- 3 教育環境

## 訪問調査

### 1 学校設立の趣旨とねらい

アラン・ギトゥンズ教頭の概要説明によると、設立経過については、事前調査概要で示したとおり、バクスレーは、ロンドンでも貧しい地域にあり、1,300人程度が収容可能な学校である。民立（民間の出資により設立）公営（運営その他の経費は公財政でまかなわれる）といえる。「シティ・アカデミー」の施策は、前述したとおり都市部の教育困難校の教育水準の向上を目的に、2000年3月、政府支援による新たな公営独立中等学校（publicly funded independent school）として打ち出されたものである。

### 2 特色ある教育内容・教育方法

アラン・ギトゥンズ教頭の概要説明によると、IT教育では、英国トップで無線LANが整備され、セキュリティは万全である。教員には、ラップトップパソコンが与えられており、有効活用が図られている。学校の特徴は、すべてのものに対して敬意を持つことと定められており、他人に対して、自分に対して、環境に対してである。

時間割については、昼食時間を設けなくて、9時から14時の間に生徒たちは分散して食事を取るになっている。

教員組織については、校長と5人の教頭、一般教員、サポート職員からなっている。教員は、通常の学校とは異なり、約80%を教育に充て、20%を他のこと（ディスカッションなど）に使っている。昇給なども個人交渉で決めるシステムになっており、他の公立学校に比べ開かれた学校と言える。

#### （1）フラット・マネージメントとその効果

通常の公立学校は階層型になっている。ここでは、平面型のマネージメントシステムが取り入れられ、正規教員一人ひとりがラーニング・マネージャーと呼ばれ、学校としての枠組みの中でそれぞれがイニシアティブを取って取り組んでいる。教員たちにとって、意志決定の際に自分たちの意見を何層にも通さなくて済むシステムになっている。

#### （2）子どもたちの生活の立て直しと学力向上手段

以前の経営陣になかったことであるが、新しい経営陣は、校内で生徒たちの前に姿を見せ、何か問題が起こったらすぐその場に駆けつけ、一つひとつ解決することから始めた。そのことが、教員たちを安心させることにつながり、また、生徒たちは、学校が民間の資本からできているので、何か事を起こしたら退学になるという危機感を持っている。校舎が新しいことも生活の立て直しに役立っている。

#### （3）通学を許される生徒の状況

この地域にはグラマースクールがあり、成績の良い子は試験で入学してる。バクスレーにはグラマースクールを目指さない生徒が入学している（生徒数は1,300人）。どちらかと言うと低所得層の子どもたちが来ている。この地域の小学校を出れば誰でも来ることができ、地元有利というわけであるが、定員を上回る応募者がある以上入学できない子どもたちもいる。ここでは、兄弟が通学している、距離が近い等によって入学者を決めている。

#### （4）学習活動等生徒の状況

以前は毎年20人程度の退学者がいたが、今では、年間3人程度にまで減少している。学校の姿勢も変わり、以前は学校の外に出す方法をとっていた



〔ホールに掲げられた全職員・生徒の肖像〕

が、今は、「内包する」という考え方に変わりつつある。つまり、中に包み込んで行動を改めさせるやり方である。

学校の授業時間も異なり、通常の公立学校が週25時間に対し、ここでは32～33時間も行われている。内訳は、月曜～木曜まではナショナルカリキュラムの実施で、金曜はビジネスデーになっている。社会の「公民」的な学習や、ビジネス等の学習を実施し、普通のカリキュラムでは学べない内容を網羅するようになっている。

#### (5) 学校と家庭との関係

ITを活用して、生徒たちは家庭から学校の宿題をアクセスしたり、両親は、学校の状況を把握できるなど関心が高いようである。また、成人教育も考えていて、夜間に、イブニングコースを作って、両親に対しても教育することを考えている。

### 3 教育環境

#### (1) セキュリティについて

3つの点において重点を置いている。 機材の安全、 生徒自身の安全、 建物全体の安全である。生徒にはICカードを持たせ、学校での食事や買い物、プリンターなどの機器類の使用などにも使えるよう考えられている。現金を持たないので安全度が高まると考えている。

建物に関しては、教育技能省(DfES)が敷地全体を巨大な防御フェンスで囲む計画がある。これは国の義務と考えられ、校舎内にも多くの防犯設備が取り付けられている。

#### (2) イギリスの中等学校の制服事情

イギリスのほとんどの中等学校で制服が導入されている。当校の導入の意図は、自分に対して敬意が持てるようにすることと、生徒としての証明にもなることである。一方、この地域は、低所得層の生徒たちが多いので、着ているもので判断されることがないようにと考えられている。

#### (3) 施設見学をとおして

ユニークな校舎は、窓の外部にフィンが取り付けられ、太陽光の当たり具合によって自動的に角度を変え、室内温度をコントロールする仕組みになっている。(冒頭写真は、学校のフェンスではなく、太陽光を察知するフィンである。)

校舎内は、中央が広いオープンスペースとなっていて、ほぼすべての教室の中の様子まで見渡すことのできる、ガラス張りを基調とした配置となっている。生徒たちも、教員も、自由に観察され観察できる環境になっているため、ある種の緊張が保たれるよう工夫されている。もちろん、職員室、会議室等もその一角に位置している。

施設設備面では、ビジネス・アカデミーの名のとおり、ビジネスに関する設備が多く見られた。木工機械や、金属加工機械、コンピュータなど。他に、証券取引の情報が見ながら見ることのできる装置や、スポーツ活動のためのホールなど行き届いたものとなっていた。



〔中央階段とガラス張りの校舎内〕



〔完備された木工や金属加工の機械設備〕



〔スポーツ専用ホール〕

### まとめ

モダンな校舎は、第二次世界大戦で焼失したベルリンの政府の建物を再建したことで知られているドイツの著名な建築家フォスター（Foster）卿の設計と聞き、さすがに、一見学校とはいえない建物であった。学校設立のコンセプトは、学校をより良いものにするという一貫した考えのもとに組み上げられている。校舎もその一翼を担っているという教頭の説明にもうなずけるものがある。

調査項目にある「特色ある教育活動」の展開は、シティ・アカデミーの特徴を最大限生かした取り組みであり、とりわけ地方教育当局（LEA）から完全独立を保っていることにより成り立っていると考えられる。完全独立とは学校理事に地方教育当局（LEA）の代表が入っていないということであるが、LEAとの協力関係は密接で、共に問題解決に当たっていることには違いないとのことであった。

我が国と制度は異なるものの、資金調達に工夫が見られるシティ・アカデミーのような公立学校に魅力を感じる。

英国では、ナショナルカリキュラムに準じた学習プログラムと、ナショナルテストに一定の成果を出せば、LEAからほとんど独立できる。しかし、学校経営者としては、学校もフリーマーケットにさらされるわけであるから、経営手腕が問われることになる。その緊張が良い結果につながると思われる。



〔生徒の制作物〕